

学校教育目標	よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子
目指す学校像	「安全・安心・信頼」を基盤に、一人ひとりが輝き、思いやりあふれるあたたかい学校

重点目標	1 児童が主体的に学びに向かい、生きる力を育む豊かな教育の実践 2 あたたかな交流を通して、児童の心を育む教育の実践 3 コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進、情報発信の充実 4 施設・設備等への対応及び掲示教育の推進 5 教職員も主体的・対話的に学ぶ体制の強化
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○落ち着いた態度で授業に臨み、課題に対して熱心に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、市平均と比べ、概ね良好な結果である。 <課題> ○間違いや失敗を恐れ、多様な考えや思いなどを表現するなど、決まった答えのない活動に躊躇したり、自信がもてなかったりする傾向がみられる。	・「主体性」を育む授業の推進	①学びのポイント「じ・し・や・く」を踏まえた授業を展開し、『教師が教える授業』から、『児童が学びを獲得する授業』へと改善する。 ②「学びの指標」を活用し、客観的なデータに基づき検証する。	①児童の学校評価「自分でよく考えながら、勉強していますか」の数値が、前年度と比較して向上したか。 ②「学びの指標」の1回目と2回目を比較し、数値が向上したか。			
		・「生きる力」を育む教育の推進	①総合的な学習の時間を地域や実社会と関連付けた内容に改訂して実施する。 ②各教科の見方・考え方を働かせ、学校での学びと実生活と結び付ける学びを充実させる。	①総合的な学習の時間において体験活動等を新たに実施することができたか。 ②実生活と結び付けた「新しい家庭学習」に、6割以上の児童が取り組むことができたか。			
2	<現状> ○明るく素直で、穏やかに接することができる児童が多い。 ○縦割り活動の「ともだちタイム」を実施し、異年齢との交流の場を意図的に設定している。 ○SCやSSWと密に連携を図り、児童理解や支援を組織的に進めている。 <課題> ○児童が互いに支え合う体験を通して自己有用感を高め、思いやりの心を醸成する必要がある。 ○児童の抱える不安を早期に発見したり、児童が自ら相談したりする体制を一層充実させていく必要がある。	・「思いやり」の心を育み、支え合いの力を高める教育の充実	①学級活動や児童会活動等において、児童が主体的に取り組む活動を充実させ、相手を思いやる機会を増やす。 ②道徳教育や学級活動におけるいじめ防止プログラム等、指導の充実を図る。	①学級活動や児童会活動等において、児童が主体となる取組を、充実して実施することができたか。 ②道徳教育や学級活動等において、発達支持的生徒指導や課題未然防止教育を実施することができたか。			
		・「組織的対応」の充実	①事前の周知や研修等の実施により、個人面談や教育相談週間における相談対応スキルの向上を図る。 ②学年会、教育相談・生徒指導部会、ケース会議等を活用し、担任以外の教職員と連携しながら指導・支援にあたる体制を充実させる。	①学校評価における、児童及び保護者の「相談」に関する質問項目の数値が、前年度と比較して向上したか。 ②支援会議を行ったり対応等について情報共有を行ったりするなど、担任一人が抱えることなく、組織的に対応することができたか。			
3	<現状> ○学校運営協議会を母体として、学校、家庭、地域が連携・協働しながら児童を育成することができている。 ○家庭・地域の学校への関心が高く、登下校や学習活動へのボランティアにも協力的である。 <課題> ○学校の様子を発信し、家庭・地域と共に児童の成長を図る体制の一層の充実が求められる。 ○児童が地域との繋がりを実感できる取組を推進することが求められる。	・学校と地域、家庭の「連携・協働」の推進	①学校運営協議会における熟議等において現状を共有し、児童の伸ばしたい力や具体的な取組について協議する。 ②学校運営協議会に児童が参加することを通して、児童の意識や意欲を高める。	①学校運営協議会において、共通理解を図り、目指す方向性を見出すことができたか。 ②児童が主体となった地域貢献活動を実施することができたか。			
		・「情報発信」の充実	①学校説明会を開催したり、2学期に学校公開日を設けたりするなど、直接発信する機会を増やす。 ②学校 HP の更新や学校ブログの投稿、学校安心メールの発信等、インターネットを活用した発信を積極的に行う。	①学校評価における、保護者の「学校の活動の広報」に関する質問項目の数値が、前年度と比較して向上したか。 ②学校における発信を、昨年度より充実することができたか。			
4	<現状> ○校庭が広く、体育や休み時間等において伸び伸びと過ごすことができる。 ○校舎については老朽化が見られ、不具合が生じてきている。 <課題> ○リフレッシュ工事が延期となり、今後の見通しが立たないことから、改めて校内の状況を見直し、優先順位をつけて老朽化や不具合への対応が求められる。	・「施設設備環境」への調整	①リフレッシュ工事が延期になったことを踏まえ、修繕等の優先順位等を改めて見直し、教育委員会と積極的に連携を図りながら対応を進める。 ②廃棄物の処理を定期的に進める。	①老朽化等への対応について具体的に働きかけ、進めることができたか。 ②廃棄物の処理を進めることができたか。			
		・「掲示教育」の充実	①校内掲示の分担を明確にし、各担当が意図的・計画的に工夫した掲示物を作成する。 ②児童の成果物を掲示することを通して掲示教育の効果を高める。	①季節や学校行事等と関連付けるなどの工夫をし、校内掲示を更新することができたか。 ②児童の成果物の掲示を、昨年度より充実することができたか。			
5	<現状> ○教員のキャリアとして、若手・中堅・ベテランのバランスがとれている。 ○担任外の教員を各学年の副担任として割り当て、チームで取り組む体制をとっている。 ○3年計画で取り組む学校課題研究の2年目となった。 <課題> ○「働き方改革」の一層の推進が求められている。 ○新学習指導要領を実現する「令和の日本型教育」の一層の推進が求められている。	・「学校 DX 推進委員会」を核とした改善の推進	①今年度から立ち上がった「学校 DX 推進委員会」において、各学年における現状や課題を把握する。 ②本校としての指導の方向性や系統性、タブレットの管理体制、働き方の改善策等を打ち出す。	①「学校 DX 推進委員会」を定期的に開き、協議することができた。 ②協議する中から、具体策等についてボトムアップすることができたか。			
		・「チーム学校」の推進	①担任外教員を各学年の副担任に割り当て役割を明確にし、チームとして様々な実務を遂行する。 ②教員の主体性に基づくグループ編成をし、学校課題研究を進める。	①副担任制により、チームとして各学年の運営や業務を遂行することができたか。 ②教員の主体性に基づくグループのよさを生かし、研修が深まったか。			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

